

1 出願について

Q：募集要項にある保護者について教えてください。

A：保護者は、児童の父・母です。検定ですので、子どもの父母においていただきます。特段の事情がある場合は、お問い合わせください。

Q：国籍についてです。両親とも外国籍ですが、受験資格はありますか。

A：国籍は問いません。

Q：幼稚園の在籍年数が1年7か月の場合、志願書にはどのように記載をすれば良いですか。

A：保育施設の在籍年数の実態や実数が伝わる表記にしてください。

Q：入学人数が男女50名程度になっていますが、募集人数が25名ずつなのはなぜでしょうか。

A：新1年生は、35名で3学級編成、計105名です。附属幼稚園からも新入生を迎えているため、募集人数が男女各25名程度となっています。

Q：帰国児童教育学級の条件を教えてください。

A：帰国児童教育学級は第4学年から設置しています。従って、新1年生の入学枠はありません。帰国児童教育学級の詳細は、小学校のホームページに現在の募集要項が掲示してありますので、ご覧ください。

2 検定について

（1）第二次検定受検のための手続き

Q：第二次検定受検のための手続きに筆記用具持参とありますが、どのような内容ですか。

A：第二次検定の書類等の記入や簡単な質問にお答えいただくために筆記用具を使用します。また、印鑑も忘れずに持参してください。

Q：第二次検定受検のための手続きに書く、作文のテーマなどがあれば教えてほしい。

A：検定受付の書類に考えを書いてもらいますが、作文ではありません。

（2）第二次検定について

Q：双子の場合の保護者の付き添いはどのようにすれば良いですか。

A：第二次検定は、児童1名につき1名の保護者の付き添いが原則です。ご事情がある場合は、お問い合わせください。

Q：第二次検定での提出書類の住民票について、夫が単身赴任の場合はどうすればよいでしょうか。

A：現在、児童と住んでいる方の住民票を提出してください。この質問の場合は、児童と一緒に住んでいる母親の名前があるものを提出してください。

Q：第二次検定で提出する住民票は、本籍地の記載は必要でしょうか。

A：本籍地の記載は必要ありません。第二次検定の受付時にご持参いただく住民票は、本人と同居家族全員が記載されているものをご準備ください。個人番号（マイナンバー）や世帯主、本籍、筆頭者の記載は不要です。

Q：二次検定の持ち物に筆記用具とありますが、児童が使うものでしょうか。

A：筆記用具は、保護者が使うものです。児童に必要な持ち物がある場合は、検定受検のための手続きの際に連絡いたします。

Q：二次検定の待ち時間に保護者の方に話を聞くということですが、どのような話を聞くのでしょうか。

A：現在お住まいの住所など記載事項の確認や、家庭での児童の様子についてうかがいます。

（3）検定全体について

Q：第一次検定と第三次検定の抽せんは、どのくらいの倍率になるのでしょうか。また、一次から三次検定でどれくらいの人数になるのか、教えてください。

A：志願者数によって倍率が異なります。また、人数についてもお答えできません。

Q：きょうだいが入籍していることでの、有利不利はありますか。

A：きょうだいに関係なく、児童一人ひとりを見ていますので、有利不利はありません。

Q：帰国児童教育学級がありますが、入学検定において留意配慮されることありますか。

A：本校の帰国児童教育学級は、4年生以上に設置しています。1年生には帰国児童教育学級はなく、全員一般学級になります。従って、日本の幼児教育を受けてきた子と同じ検定になります。

3 本校の研究・教育課程について

（1）研究について

Q：「てつがく創造活動」の創設の経緯や内容について教えてください。

A：本校では、文部科学省による研究開発学校の指定を受けて、2015年度～2018年度までの4年間、新教科「てつがく」の創設に取り組んできました。この「てつがく」では、子どもたちの日常の素朴な疑問を出発点に、日常の生き方を問い直していく学びをつくってきました。また、引き続き、2019年度からも文部科学省による研究開発学校の指定を受けて、それまでの研究を引き継ぎ発展させる研究として新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発に取り組み始めました。これらの研究はこれからの社会を生きていく上で必要なスキルを身につけること、民主主義社会に生きる市民を育成することなど、社会的な要請を受けて、新たな教育課程を構想する研究です。思考するだけでなく、それを実際の行動に結びつけていく学びをどのようにつくっていくかを現在考えているところです。

Q：メタ認知スキルの取り組みについて、具体的にどのような内容ですか。

A：メタ認知スキルは、一般的に、自分の認知や行動を一段離れたところから振り返ることと認識されています。本校では、新領域「てつがく創造活動」でのてつがく対話などを通して、日常的に自分自身の認知や行動を振り返り、自分の学びを広げ、深めることを目指しています。

（２）教育課程について

Q：附属小学生が、附属中学生や附属高校生と交流する機会はありますか。

A：附属中学生が行っている自主研究の発表を附属小の子どもたちが見学に行くことがあります。また、家庭科の授業に、附属高校生が参加したこともあります。これらは、子どもたちの学習や状況に合わせて行いますので、毎年行うものでも、同じことを行うものでもありません。

Q：使用する教科書は、どのように選び、使用しているのでしょうか。

A：東京都と同じく、検定教科書から子どもたちの実態を考え、本校に合う教科書を判断し、最終的には学校長が採択します。採択理由等は、附属学校部のホームページにも載っていますので、参照してください。

Q：クラブ活動はありますか。

A：ありません。

（３）教員・教育実習について

Q：教職員の男女比や平均年齢、異動の有無等について分かる範囲で教えてください。

A：現在の男女比は1：1で、若手からベテランまでいます。異動は原則ありませんが、公立・私立小学校や大学に出る教員もいます。本校に着任した教員は、着任前から研究をしており、着任後も研究を続けています。また、本校所属の教員は、原稿執筆・発表などもしています。

Q：教育実習の期間や実習生の人数について教えてください。

A：実習生の人数は、年度によって異なりますが、概ね10名程度が4週間実習を行います。他にも、栄養教育実習も受け入れており、こちらは10名程度が1週間実習を行います。

4 学校生活について

（１）学校の休業日について

Q：土曜日の授業はどれくらいありますか。

A：土曜日は原則として休業日です。ただし、土曜日に学校や学年の行事が入ることもあります。

Q：長期休みはいつ、どれくらいの期間ありますか。

A：夏期休業が7月下旬～8月末、冬期休業が12月下旬～1月上旬、春期休業が3月下旬～4月上旬にあります。

(2) 安全面について

Q：食物アレルギーをもつ子どもに対して、どのように対応しているのでしょうか。

A：給食は除去食が基本ですが、栄養教諭と養護教諭、学級担当、場合によっては管理職とも相談し、慎重に進めています。

Q：校内のAED設置状況、救命救急訓練の実施状況を教えてください。

A：現在2台設置しています。通常1台は保健室（1階）、もう1台は教員控え室（3階）にあり、水泳期間中はプールサイドに移動しています。救命救急訓練は水泳が始まる前に、全教員、水泳補助員、実習生に実施しています。

Q：入学後、子どもがGPS付きの携帯を所持することは許可されていますか。

A：GPS付きの防犯ブザーは許可していますが、通話機能のあるものは許可しておりません。

Q：通学班活動について、具体的に教えてください。

A：通学班は、利用している交通手段（通学ルート）別に大きく分けて通学班を構成しています。通学班の活動では、交通ルールや安全な登下校について確認したり、話し合ったりしています。この活動は、年に数回行っており、年1回は集団下校も行っています。

(3) 転出入・進路について

Q：復学制度があるそうですが、復学する際に試験はありますか。

A：簡単な検定を受けていただくことになっています。

Q：附属中学校への進学率について、教えてください。

A：在校生一人ひとりが保護者ととも進路を考えた上で、教員と相談して進路を決めています。なお可否については、中学校が判断していますので、お答えできません。進学率はここ何年かを平均すると、6割から7割です。

(4) 保護者のかかわりについて

Q：保護者が学校に来る頻度は、年間でどれくらいになりますか？

A：入学当初は、登下校に慣れるまで送り迎えが必要になります。その他、子どもたちの学習の様子を見たり、学校と保護者ととも教育をつくっていったりする機会があり、低学年の間は来校する機会が多くなります。

(5) 設備について

Q：各教室の冷房の設置状況を教えてください。

A：体育館を除く、すべての普通教室・特別教室に設置してあります。

以上